濃いっ！阪大
ジャパニーズ・ウイスキー 編
「光吹-MIBUKI-」開発 編
3 Topics
サクラ咲く 10年ぶり掲示板での合格者発表
平成27年度入学式を挙行
平成26年度卒業式・大学院学位授与式を挙行

14 深い！阪大１—ジャパニーズ・ウイスキー編—
ジャパニーズ・ウイスキーのレジェンド3/4

20 Topics
大阪大学オリジナルウイスキー完成記念イベントを開催

24 深い！阪大２—「光吹-MIBUKI-」開発編—
大阪大学オリジナルウイスキー「光吹-MIBUKI-」誕生。

新入生・フレッシュマンの皆さん、
新しく大阪大学の門をくぐられた全員の方を
心から歓迎いたします。
10年ぶり
掲示板での合格者発表

3月9日（月）、3月22日（日）、
大阪大学入学者選抜試験の合格者
（前期日程2,994名、後期日程396名）を発表しました。
今年の合格者発表は、ホームページと掲示の両方で行われました。
平成17年度入試以来10年ぶりの掲示による発表で、
キャンパスには多くの受験生が集まり、
合格の瞬間を生で体感しました。
平成27年度入学式 総長告辞 <要旨>

「歴史的大変革期を生きる」

大阪大学入学式ならびに進学しました皆さん。おめでとうございます。また、ご臨席いただきましてご家族の皆様、関係者の方々に心より感謝申し上げます。あらゆる可能性を探求めた前進を果たす皆さんは、本日、大阪大学の一員として、あなたが人生を踏み出すその第一歩を迎えられました。大阪大学総長としてこの上ない喜びであり、大阪大学は心から皆さんに歓迎いたします。

皆さん方は、この大変革期を生きるにあたり、日本は勿論もと広く世界に目を向け、「社会の変化に対する」力を身につけなければなりません。では、現代の社会が求める人材、その能力とはどのようなものでしょうか？例えば、決定力、行動力、そして言語運用能力を含むコミュニケーション能力。これらは、しばしば従来よりリーダーの資質として語られています。確かにこれらの能力を身につけた必要はありますし、急速に変化し続ける現代社会においては、これらの汎用的な能力だけでは十分ではありません。それらからの社会が求める人材とは、多様な課題に直面する様々な回答を見極め、従来からの常識や考え方を超えた課題解決を先導できる人材であると私は考えます。「物事の本質を見極める力」は、現象として認識可能な事象の真実を見極め、その事象の真実を見極めるもの。そしてその仕組みを見極める力である。それを見極める力は、「一芸に秀でた者」と総合の道に通じる」という言葉があります。この力の基盤となるのは、特別の分野をとことんまで突き詰めた高度で専門性です。大学が優先的に学び、それに立脚した高度で専門教育を行う意義はここにあるのです。

また、物事の見方の転換も重要かもしれません。例えば、科学技術の力で自然を征服するという発想はなく、どのようにすれば人類は自然を共生できるかを真剣に考える必要があります。また、病・死などの問題が避けられない問題も、今では生命科学や医学の発展により克服するという姿勢で研究が行われてきました。しかし、そのような発想を転換し、どのようにすれば人類はこれらの問題と共生し心安らかな人生を全うできるか、見つけ出す必要があります。このように、正しく主観の兆しがあること、物事を見る時、一般から見るのでではなく、視野に様々な視点から見える必要があります。さらに、物事の全体像を捉える「拓幅的視点」も重要です。「木を見えて森を見ず」という言葉が示すように、一木の木について部著の良いことが、必ずしも森全体にとって最善の策と限らないのです。短期的にはその木によって最も善の策であっても長期的には森全体にとって悪影響があれば、結論はその木に対して致命的な問題となるのです。

これらの視点を養うのは幅広い教養教育です。教養教育は、単に知識の蓄積ではなく、広く柔軟な視点の獲得に繋がるものとして重要です。さらに、グローバル社会においては、人類の活動のフィールドはますます拡大していき、異なる言語、文化、民族、宗教、国の相手との関係構築、そして協調が必要となります。そのような状況に適切に対応するためには、孔孟の言葉である、「相手の心をしらぬと、自国の心をしらぬ」という教訓の心、『相手の心をしらぬと、自国の心をしらぬ』と他者の視点から考えを理解し尊重する「共感の心」を育むことが重要です。そして、この前提として忘れてはならないのは、「己を知る」ことです。多様性を持つ人類が共存共栄していくためには、まず自己を知り、自国を理解し、かつ尊重することが必要です。自分自身を、自国を愛することが出来なくて、それらを知り、それらのことを理解し、尊重することができない。どうして他人や他国を理解し尊重することが出来るのでしょうか？皆さん方は、大阪大学で思う存分学んで欲しいと思います。さらに積極的に自ら問題意識をもって回答を求める努力をして欲しいと思います。また世界に目をに向けて欲しいと思います。積極的に海外に出かけて様々な国の人と交流し欲しいと思います。大阪大学には様々なプロジェクトや機会があります。是非ともこれらを積極的に有効活用して歴史の大変革期を生きていきます。

平成27年4月2日

大阪大学総長
新入生のみなさん、
ようこそ大阪大学へ。

4月2日（木）、大阪城ホールで平成27年度大阪大学入学式を挙行し、
新たに6,415名（学部3,449名、大学院2,926名）が
入学、進学しました。
多様性の結果、社会においては多様性を重視する必要がある。多様性は、社会の発展と進歩を促進し、社会の経済的、社会的、文化的、環境的持続可能性を高めることを可能にする。したがって、多様性を尊重し、多様性を尊重することにより、社会の発展と進歩が促進される。
学部生3,314名、大学院生2,665名が大阪大学を卒業・修了

3月25日（水）、大阪城ホールで平成26年度卒業式・学位授与式を挙行しました。卒業・修了おめでとうございます。
ジャパニーズ・ウイスキーのレジェンド 3/4

今や世界五大ウイスキーに名を連ね、
近年の世界的コンペティションで上位を席巻するジャパニーズ・ウイスキー。

2012年にウイスキーマガジン社が発表した「世界のウイスキー、100人のレジェンド」では、日本人4人が選出されました。
サントリーを創業した鳥井信治郎（1879-1962）とその後継者・佐治敬三（1919-99）、
ニッカウヰスキーを創業した竹鶴政孝（1894-1979）、
「マルスウイスキー」を生んだ岩井喜一郎（1883-1966）。

岩井と竹鶴は大阪高等工業学校（現大阪工学院）醸造科卒。
佐治は大阪帝国大学理学部卒と、4人中3人が大阪出身者であることは本誌前号「マッサン」と大阪大学で説明しました。
この事実から、日本のウイスキーの歴史において大阪が重要な位置を占めることが説明されるでしょう。

前号の主题は醸造科にあったために触れられなかった鳥井と佐治の功績を、今回ご紹介します。

遠藤記念センター准教授
松永 和夫

Torii Shinjiro  Saji Keizo  Takeshura Masataka  Iwai Kiichiro
鳥井信治郎
—やってみなはれ

民間の経営者であった鳥井は阪大に所属した過去はありませんが、その関係は決して淡くありません。また他のレジェンドの役割を明確にするためにも、触れられておくべき人物です。

鳥井は明治12年（1879）、大阪市東区（現・中央区）鶴見町の両親（のち米穀商）の次男に生まれました。大阪商業学校（現・大阪市立大学）に通った後、同町の菱蔵屋・小西製油所（「エコノポリス」）で昭和15年（現・「シーガル」）で知られ
る「鯖・コウ」にて初任頭を務めます。この職場では輸
入洋酒を顧問しており、洋式洋酒の調合技術を学んだ
後、ブランデー・ブレーキ・ウイスキーを担ぎ、ス
ペイン酒のワインをベースにした混み红酒「赤玉ポタリング」を開発・販売しました。日本初のスーパーバー等、品
牌名品を纏う広告部の新たな宣伝も手伝って、大
正年間を中心に「赤玉ポタリング」は大ヒットします。鳥井
はその利益を元に、大麦を原料とする本格的なモル
ト・ウイスキー事業に乗り出すことを決意しました。

それまで日本で製造されたウイスキーは、アルコールに
香料・甘味料を加えたエキシマドレゼンでした。本格ウイスキー事業の実現に限らず、幾多の壁が立ちかかっていました。

まず船来米造元・洋造上上の風潮のなかで、同国産品の売却を見込み立たなかったこと。次にイギリス
の法律では最低3年の熟成が義務づけられているように、長期期間の熟成が必要であること、年数の異なる原酒を
混ぜて製造するため、最低でも5年はかかり、それま
で販売の回収ができないこと。当時の体制は日本酒を基
準とする造り方（熟成を10年以上に製造量に対して課税）
があったため、販売では尋ねる筈の欠落（これを「エンジェ
ル・シェア（天然の分け前」）と呼ぶ）が生じるウイスキー
によって歓迎できないことがありました。

故の定、社内外から反対が巻き起こりますが、それでも
鳥井は「赤玉ポタリング」の好調な今こそがチャンスと、
勝負で打って出ます。「やってみなはれ」と鳥井の口癖
です。その後に製造された造りで、その一語に集約される進取の気運とラジェン
ン精神は、息子の佐治に引き継がれています。

大正12年（1923）、社内製造で蒸留技術を学んだ
竹村を初代工場長に迎え、翌年から山崎蒸溜所で原酒
の製造を開始しました。昭和4年（1929）には初の原酒ウイスキー「サントリーブラン」を発売します。なおサントリーの
発足については「鳥井さん」との証言がはげていますが、正しくは「赤玉ポタリング」の「サントリーブラン」と「鳥井
に由来します。広告では国産原の気負いもあってか勇ま
しい文言を並べ立たましたが、ビール（現）のスモークリー
フライバーが受け入れられず、消費者にはそれほど高く
なっていました。山崎蒸溜所の今井が加わり、山崎蒸溜所と
原酒の仕込みができる状況までの追い込みで、多角
経営に活路を求めます。国産原の新製造局を設け、イ
スリム蒸留等を製造・販売してウイスキー事業を守り抜き、
原酒の熟成が進んだ昭和12年、ようやく日本人に受け入
られる「酒類」が誕生しました。

その後は戦中に帝国海軍、戦後に進駐軍の軍需品に
指定され、安定した経営が可能となりました。戦後－高
度経済成長期には「洋酒の寿司」として現在の地位を
築きます。これを誇らしめていくのが、佐治敬三でした。

佐治敬三
—へんこつ なんこつ

佐治は大正8年（1919）、鳥井の次男として寿司本社を
経営する大阪市北区住吉町（現・中央区松屋町）に生
まれました。鳥井家は大正12年に雲雀丘（現・川西市
寺嶺）の新興高級住宅地へと新しく、佐治は興西有馬
電車（現・阪急）に乗って大阪府池田師範附属小学校
（現・大阪教育大学附属池田小学校）、府立浪速高等
学校（後の大阪教養部）へ通いました。佐治家に養子に
入れたのは浪高専門学校入学前に預けて昭和7年（1932）
のことですが、これまで通り養親與子の吉田太郎（弟の道夫
（後に浪高に進学）と一緒）を育てました。昭和時代は文武両
道に優れ、テニス部としてインターハイに出場する一方で、後には東京帝大を首席で卒業し伊豆空港ターミナル
ビルやサンタリーホールを設計する建築家・佐野正一（1921-2014）とともに、「清流に25あり」と号を称られました。

昭和15年、筑波高等学校を卒業する佐野は、中之島の洋梨堂で建築を学びました。小松在住で
父と親戚があった新潟県第二高等学校（有機化学）の小竹
雄二（1894-1976）に師事しました。佐野は小竹を深く
敬愛し、小竹が東京帝国大学に入学した「エトヴァール・ノイエ
（何か新しいのではない）の精神」を受けて、常に
革新を指向する心意気で、後年、企業経営に当たることになり
ます。卒業のテーマは「人体内にアミノ酸であるトリプタミ
ンの代謝中間体（カセイン）の構造の決定」で、戦後
末期にあって新学を卒業した学生が予定されていたため、通常
の3年次ではなく2年次に3月から取組み始めました。

ついてながら帝大在学中の影響の影響を語る話を
もう一つ、佐野の自伝『へんこつ こんなことから紹介す
ると』、当時吉村郁兼で『八十八アンダライ』で知られ
る八十八次（1886-1976）が「配属枠を出る際の重ねる理
不尽を求めるのはなぜで、大学の使命は研究を遂行し
学生の教育に、それこそが国に儲かるゆえである」
と堂々と主張したという。その堂々とした講義があ
るのは時代、小松在住の学生を弔うと懐かしく思い
返すと所感が言えます。

昭和17年9月、大阪府政を纏う小松卒業の佐野は
は海軍省第一航空燃料総局に配属され、石油に代わる航
空燃料として松本の研究・開発に参じました。佐野は
昭和20年10月に寿司で正式に小松在住でした。夢は
化学者としたが、小松の後継者を目指されての兄・吉太
郎が5年前に早逝したためでした。

佐野は化学者としての功績は抜群の佐野は父と親戚が
あったことも含めたので、筑波大学に在学していた学部生
と開発の地球の存在に気づき、また所長に指名されました。ただ当面の用途がなく、筑波大学理
学部化学教室の教室を作るにあたることになりました。研究

さらには筑波研究所の先
達・広瀬義夫、筑波大学理学部
物理化学教室教授講座教授の
助手・金城初枝（詩人・牧
羊子）がおり、金城は佐野の
肝腎でこの年創刊された家
庭向け科学朝日新聞社の「報
サツัก」（1946-47）に掲
載されました。

昭和24年に官選に就任すると、佐野の教授職を引き
受けている。大学の教職員は「大学の使命は研究を遂行し
学生の教育に、それこそが国に儲かるゆえである」と堂々と
主張したという。その堂々とした講義があなたのは時代、小松
在住の学生を弔うと懐かしく思い返すと所感が言えます。

前から2回にわたって、ジブリ・ヌイサークのレジ
デンス4人を紹介し、その4分の1は佐野出身者であ
ることを示した。「少しの誤差をした」という1つ
の「分の1」という数値を示すのは、小松は寿司を教員
しただけでなく、大学の先生に学びました。佐野が事
業を継承しました。うち若井岩・松本の3分の1は、サン
タリーフィルトとの関係なのです。

本文の中で特に触れられておらずに、サンタリーホールと
本学とは深い関係にあります。今年度の国際イベント
ランナーズプログラムにおける学生企画として、サンタリ
ホールの全面御力の下、大阪大学オリエンタルウイスキー開
発プロジェクトが進められていた。3月19日に完成
記念イベント、もしくはサントリーフィルト・セミナーが
開催されました。本学においては、サンタリーホールの
7樓層ミサーティーとして使用され、サンタリーフィルト
の生産工場をﻣﾐで、大学の先生に学びました。佐野が事
業を継承しました。うち若井岩・松本の3分の1は、サン
タリーフィルトとの関係なのです。

本文の中で特に触れられておらずに、サンタリーホールと
本学とは深い関係にあります。今年度の国際イベント
ランナーズプログラムにおける学生企画として、サンタリ
ホールの全面御力の下、大阪大学オリエンタルウイスキー開
発プロジェクトが進められていた。3月19日に完成
記念イベント、もしくはサントリーフィルト・セミナーが
開催されました。本学においては、サンタリーホールの
7樓層ミサーティーとして使用され、サンタリーフィルト
の生産工場をｍｍで、大学の先生に学びました。佐野が事
業を継承しました。うち若井岩・松本の3分の1は、サン
タリーフィルトとの関係なのです。

本文の中で特に触れられておらずに、サンタリーホールと
本学とは深い関係にあります。今年度の国際イベント
ランナーズプログラムにおける学生企画として、サンタリ
ホールの全面御力の下、大阪大学オリエンタルウイスキー開
発プロジェクトが進められていた。3月19日に完成
記念イベント、もしくはサントリーフィルト・セミナーが
開催されました。本学においては、サンタリーホールの
7樓層ミサーティーとして使用され、サンタリーフィルト
の生産工場をｍｍで、大学の先生に学びました。佐野が事
業を継承しました。うち若井岩・松本の3分の1は、サン
タリーフィルトとの関係なのです。

本文の中で特に触れられておらずに、サンタリーホールと
本学とは深い関係にあります。今年度の国際イベント
ランナーズプログラムにおける学生企画として、サンタリ
ホールの全面御力の下、大阪大学オリエンタルウイスキー開
発プロジェクトが進められていた。3月19日に完成
記念イベント、もしくはサントリーフィルト・セミナーが
開催されました。本学においては、サンタリーホールの
7樓層ミサーティーとして使用され、サンタリーフィルト
の生産工場をｍｍで、大学の先生に学びました。佐野が事
業を継承しました。うち若井岩・松本の3分の1は、サン
タリーフィルトとの関係なのです。
完成記念イベントを開催

3月19日（木）、大阪大学ウィスキーの完成を記念するイベントが
大阪大学中之島センターで開催され、卒業生約200人が参加しました。
本学国際学生の企画による

「大阪大学オリジナルウィスキー『光釉—MIBUKI—』(みぶき)」の
開発プロジェクトは、産学連携による人材育成の取り組みとして、
サントリースピリッツ株式会社のご協力のもと、昨年6月から進められてきました。
この日のイベントでは、ミスマッチャーやトークを通じて、
阪大とジャパニーズウィスキーの「レジェンドたち」との深いかかわりや
開発プロジェクトの経過などを紹介しました。

ゲストスピーカーの
高倉雅雄・元ミリタリー山崎蒸留所工場長（阪大工学部醸造工学科）から、
「ウィスキーでは阪大が導く「調和のある変革性」が実証していきます」との発言がありました。
(高倉氏と本校の永井教授との対談の詳細は本誌32ページをご覧ください)
学生たちによるプロジェクト報告では、
「阪大11学部の学生が初めて製造された11種の蒸酒を、
学生数建築に応じてブレンドした」との感想も披露されました。
(開発プロジェクトの詳細は本誌24ページをご覧ください)
完成したこのウィスキーの試飲では、参加者は香りと味のハーモニーを楽しみ、
学生たちの製品に込めた「思い」に思いを馳せました。

"光釉―MIBUKI―" スペシャルサイト
http://www.osaka-u.ac.jp/sp/mibuki
鳩谷幸雄氏に聞く

出身の工学部醸酵工学科では？

当時の醸酵工学科では直筆、酒造の研究はやってなかった。私は好きだったこともあり、酒に直接研究をやった。4年生の時には酒類飲料の不純物を除去するイオン交換膜について、大学院では日本酒の酵母の香気成分について研究した。当時は梅田の広市 ана白「ブックマン」と呼ばれる安田や、合成醸造（日本酒に醸造アルコール・糖分を加えたもの）を主に飲んでいた。学生にとってウィスキーは高級の花だったが、親戚のおじさんが防空壕に隠れて戦災を逃れたウィスキーを飲ませてくれたことがあって、非常に印象に残っている。サントリーには入るべく入った。

岩井喜一郎・竹村政子との関係は？

岩井さんは直接お会いしたことはなかったが、酒造の研究者として有名だった。醸造科がつぶれそうになった時（昭和4年の大学昇格の際松永注、存続運動の先頭に立ったのが岩井さんで、偉大な先輩と聞いています。竹村さんも会ったことはない。この間くんの君の養子の威さんとは親しかった。ぴっくたのは「筑練ノート」。非常に真剣な字で解読されているから、現在でも技術的に通用する良くてできたものである。数量の単位を指す文法に換算して、本気で日本酒田のウィスキーを作ろうとしたことが分かる。先覚者として尊敬できる人物だ。

佐治が目指したウィスキーとは？

ニックがスコッチを理想に掲げてウィスキー作りを行っていたのに、サントリーはそれとも違う独自のジャパニーズ・ウィスキーを目指していた。ビートの住いの外側に、味も、和食にも合うようにバランスを整えようとしていた。

スコットランドには小さい蒸留所がたくさんあって、大手メーカーがそこから原酒を買いてブレンドして販売するのが、サントリーでは原酒の生産から製造・販売を一貫してやる。だから多種多様な原酒を用意しておく必要があります。1970年代の日本蒸溜所の建設や、1980年代前後の山崎蒸溜所の大改修を経て、だれに木箱やステンレス槽、蒸留器に様々な形状のボトルを導入した。ブレンドが「こんな原酒がほしい」と言うったできるが、何年、何十年先のことからは分からないので、これから出来る仕事はもうかかせたい原酒をつくることだった。

ある意味で「鳴」はどこでウィスキーの先駆けというべきかも知れない。新たに誕生する「鳴」（MIBUWI-）の歴史的背景を、ここに紹介することが出来たわけではないだろうか。
大阪大学オリジナルウイスキー、誕生。

新しいカタチの産学連携プロジェクト
このプロジェクトは、新しい形の産学連携の取り組みの1つとして、平成26年5月からスタートしました。これまでの産学連携は企業と大学の研究開発の連携が主だったが、このプロジェクトでは、大阪大学と組まれたサンテリスピリッツ株式会社の協力の下、新しい形の企業と大学が協働で学生に提供し、さらにその成果を広く学内に伝えていくという新しいカタチの産学連携プロジェクトです。このプロジェクトでは、超領域イノベーション博士課程プログラムの大学院生を中心とする学生たちが、大阪大学卒業生がいる「大阪大学の卒業生と学生をつなぐための何か「象徴的なもの」を作りたい」というニーズを満たすために設定された「大阪大学オリジナルウイスキーの製品化と販売」という課題に対して、実際のウイスキーの製品コンセプト・コンセプトの立案・決定からプロモーションに至るプレジデントやマーケティングの一連の過程について、サンテリスピリッツ株式会社からその知識や技術を学びながら、実際にこれを学生のプロジェクトチームが行っていきました。

11名の有志により始動
平成26年5月14日、超領域イノベーション博士課程プログラムの教員と卒業生の担当者らからなるスタッフからの呼びかけに応じた11名の履修生有志が集まりました。彼らは、複数の学科に所属する国籍や進路、研究科を超えて集まり、実に「超領域らしい」メンバーでした。まず、スタッフは、彼らに「なぜこのプロジェクトに参加したいのですか？」という一問を投げかけました。これに対して、「製品が本当に作られるプロジェクトである」「マーケティングを企業の人々の指導のもとで行うことができると」「マネージメントを経験してみたい」とさまざまなものでした。さらに、リーダーにすべきか、どのようなチーム編成にすべきか、どんなタスクがあるのかなど議論は熱烈となりました。それぞれの意見の有無と、一方で、チームで達成しなければいけないこと、「実際の商品を売り出す」という目標は必ずしも一致するものではありませんでしたしかし、誠実な議論に、チーム編成を含めこのプロジェクトでやるべきことについて1つずつにチームがまとまったのではないかと思います。

「大阪大学オリジナルウイスキー」の重みを感じる
キックオフの後、しばらくはメンバーにとってはインプットの時間が続きました。メンバーのウイスキーに対する興味に基づいて話し合ったところ、「まずいい」「きつい」「ヤシの木」といった感想を含め、「飲める」とか「いい」「大人」といったポジティブなものがなかったようです。6月13日にはサンテリスピリッツの見学を行いました。ウイスキーが作られる過程や歴史、サンテリスピリッツがつくる人について学びました。ブレンドによる銘柄の計算に生み出されるプレジデント・ウイスキーは、分析的な視点を持つ理系研究科の学生に、飲む人を大事にするスタンプが、具体的な観点を持つ文系研究科の学生の観点に触れました。また、通常のほうには、グラフや図表などに全てのデータを記載したような資料があり、実際に発売している製品のプロダクトとマーケティングに関するケーススタディやフォーマルスタディを実施し、プロジェクトで行なうべき全体像に関する理解を深めました。その後、7月24日の第一回目の製品のコンセプトに
11種の異なる原酒をブレンド、「調和ある多様性」を表現
メンバーの多大な労作の結果、最終的に決定した製品コンセプトには「大人の階層を上るウィスキー」となりました。これは、いわゆるモリアリティである学生の多くにとって、「大人」は遠い存在であるが、ウィスキーに触れることによって、あこがれの世界、未来に向かって一歩ずつ足を踏み出していくというストーリーをコンセプト化したものでした。そして製品コンセプトを実現するためにウィスキーの味をどのようにするかについて議論した結果、ウィスキーの「大人の味」を表現するための味のコンセプトを、11種の異なる原酒を北九州たんがの11学部・11学部生で集めたコンセプトに決定しました。これを実現するために、メンバー36人それぞれの努力と模索が絶えず続きました。コンセプト決定後、サンプルのブレンドチェーンによって11学部を象徴する原酒を、11学部の学生人数を参考にブレンドした試作品が完成しました。再び、メンバーは山崎蒸溜所を訪れ、ブレンドを担当した福永チーフブレンダーによる試作品の解説を受けた後、参加したメンバーで試飲をしました。個性的な11の原酒がひとつに「大人の味」を形成する、まさに調和ある多様性で表現していたことに、チームメンバーは感動していました。

「光吹-MIBUKI-」と命名
さて、中味コンセプトが決定し、製品とするための熟成期間、製品の名前やパッケージのデザインなどを決めなければいけません。ここでは、メンバーはまだ大きな壁にぶつかりました。コンセプトである「大人の階層を上るウィスキー」から、ブランドイメージを具体化し、どのような名前をつけたのか、この重要な事項が中々決まらなかったのです。もちろん、異なる研究者から集まったメンバーたちは、同じ方向を向いていても見守っているという観点から、様々な意見や議論は、普段の授業で럼でよく行われるようにですが、今回はその結果が製品として実際のタグシにどのように成形されるか、限られた時間と、日常ではない情報源のなか、何度も意見を繰り返し、商社登録で使用可能な名称であることを検証を重ね、結果、「光吹-MIBUKI-」と名付けられたことにしました。これは、自分たちの先輩が先を行く未来、あこがれの大人の世界から光が吹き込んでくる、将来への小さな一歩なる存在であって、ウィスキーの名前の裏には、そのような思いが込められています。

おわりに
大阪大学の卒業生で学生をつなぐという大きな目標に向けた第1歩として、「大人の階層を上る」というコンセプトのもとで「光吹-MIBUKI-」という名の大阪大学オリジナルウィスキーが完成することになりました。複数のメンバーが1つのストーリーを作っていくというのはとても素敵な作業であるとともに、サンプルとの共同で実際のブレンドチェーンをモニタリングのプロセスを、身を持って学ぶことができたのではないかと思います。さらに、このプロジェクトを通じて、阪大生であるというアイデンティティを今まで以上に強く意識したのではないでしょうか。

さて、阪大生の阪大生への想いが込められた「光吹-MIBUKI-」は、とうとう完成披露を兼ねて発売までやってきました。しかし、このプロジェクトはこれで終わりではないです。メンバーたちは、実際の販売に向けて、さまざまな新たなプロジェクト計画を始動しています。彼ら自身もまたさらなる「大人の階層」を登りつめていきたいと考えています。

＜執筆者プロフィール＞
平井 茂（ひらい しげる）
未来戦略機構大和田学術院大和田学術院係教授、2012年生まれ。1997年大阪大学大学院大学院文学研究科卒業。1997年1月より大阪市立大学（旧大阪市立大学）文学部文学科英文学研究科助教。2005年度博士課程修了。現任、2015年3月より同大学文学部英文学科助教授。現在、同大学文学部英文学科教授。
役員室だより

「世界観」
物事の本質を見極め調和ある多様性を創造

21世紀のグローバル社会において大学に求められている新たな役割は、「学問による調和ある多様性の創造」であると考えます。地球上には、言語、慣習、文化、民族、宗教、政治、国家など様々な多様性が存在し、人類の発展はこの多様性によって支えられてきました。一方で多様性が生み出す様々なコンフリクトはグローバル社会においては障壁となり、紛争や戦争を引き起こすことがあります。大学は学問という人類共通語を有しています。学問はスポーツや芸術、あるいは経済活動等と並んでこの障壁を乗り越える大きな力となります。学問を介する人と人との交流により、多様性の維持とそれが生み出す障壁の克服という、相生することの面白さが可能となります。大阪大学は学問の府として、「物事の本質を見極め調和ある多様性を創造」することにより、21世紀のグローバル社会に大きく貢献していきます。

総長  平野 俊夫
ロシア科学アカデミーと学術交流協定を締結

ロシア科学アカデミーと大阪大学の間で、学術交流協定を締結しました。この協定は、両国間の科学技術交流を深化し、共同研究の推進に寄与するとともに、留学生交流などを含めた幅広い内容で展開されます。

国際共同研究促進プログラムを選定（平成27年度開始プログラム）

大学が主導する国際共同研究促進プログラムは、平成27年度で新たに選定されました。このプログラムは、国際的な共同研究を通じて、新たな発見や技術の創出を促進し、大学間の協働関係を強化するもので、日本の大学が世界に向けた研究の一角を担うことを目的としています。

平成27年度国際大学運営費交付金新規事業

平成27年度国際大学運営費交付金新規事業は、国が支援する国際大学運営費交付金制度の一部を創設し、大学が国際交流を推進するための予算を提供しています。この事業は、国際大学の運営費を強化し、国際的視野を持つ大学の発展を支えるものです。
新たな称号「大阪大学Global Alumni Fellow」第1号を授与

大阪大学では、部局マネジメントの充実を図るための支援として平成25年度から、学士の未来戦略実現のために積極的に取組み求められた成果をあげた各学部に「学部長長期未来戦略経費」及び「事務部」長期未来戦略経費を配分しています。

今年度は、「グローバル化」を重点テーマに、各学部局、事務部局が知恵を絞り出し、取組みを進めている結果、各学部局長が授与を受ける方針が決定されました。

その中から、先進の学部局は、優れた成果を上げた学部局が分析、事務部局長が授与を受ける方針が決定されました。

授与が決定した学部局の成果は、学内全講義の場で報告いただくこととしており、全学で取り組みが進められている状況であることが確認されています。

なお、平成27年度も同様の支援を受ける学部局は、各学部局においても引き続き努力いたしますので、皆様のご協力をお願いいたします。

配分事務用：学部局長の名義で

○部局長敬意未来戦略経費（文部省）

<table>
<thead>
<tr>
<th>部局名</th>
<th>名目金額</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>医学研究科</td>
<td>入学フェア・グローバル化支援研究推進</td>
</tr>
<tr>
<td>人間科学研究科</td>
<td>部局運営における先端的取り組み推進（観点・グローバル化）</td>
</tr>
<tr>
<td>経済学研究科</td>
<td>国際化・グローバル化のための国際交流・国際比較研究推進活動の進化・効率化</td>
</tr>
<tr>
<td>医学部附属病院</td>
<td>長大病院「国際医療センター」改</td>
</tr>
<tr>
<td>外国語学部</td>
<td>世界音楽・海外言語学生育成施設の取組 - 日本語を学ぶ世界ににつなげる</td>
</tr>
<tr>
<td>国際教育交流センター</td>
<td>グローバルキャンパスWED（Ferrar®教育）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2月7日（土）、タイ王国・バンコク市内で開催された「大阪大学タイ同窓会」（約80名の同窓生が参加）において、新たな称号「Global Alumni Fellow」の授与式を行い、第1号として大阪大学タイ同窓会の会長を務めるDr. Ittichai Arunratiratxai（2003年、工学博士）に授与をいたします。

「Global Alumni Fellow」は、世界の学術界で活躍する大阪大学フェローの関係強化とグローバル進化、本学の国際的プレゼンスの向上を目的として新たな称号として創設した称号です。

海外大学等で教授等として活躍する卒業生や元教職員を対象に、今後も順次授与を進める予定です。

理事・学長 大竹 文雄
理事・学長 池村 傑行

大阪府能勢町と連携協力に関する包括協定書を締結

2月17日（火）、本学と大阪府能勢町は連携協力に関する包括協定書を締結しました。各々が有する資源の活用を図り、教育・研究・文化の振興、まちづくりの様々な分野において活動の拡大を図るとともに、地域連携を推進し、両者の発展および活性化に寄与することを目的としたものです。

以前から、能勢町の地域資源を、本学文学研究科の演劇学講座の講義に活かしたり、能勢町市立中学校の英語授業に本学留学生を派遣するなどの事業を通じたが、相互交流が進められてきましたが、能勢町の自然豊かな里山フィールドを、本学の留学生や構成員が日本文化の再発見の場として活用したり、日本の地方自治体が抱える少子高齢化、教育問題などの調査・研究のケーススタディとするなど、様々な取り組みを通じて基盤が築かれてきました。
中之島センターの特別減免制度を本格実施

中之島センターの活用機会を増やすために「特別減免制度」をはじめます。

本学教職員の研究会や勉強会、卒業生による同窓会、学生の課外活動団体による活動など、大阪大学関係者が定められた目的に基づいて、中之島センターを活用する場合、その利用料を減免するものです。

従来、中之島センターでは「特別割引制度」を試行的に実施していましたが、平成27年4月から「特別減免制度」として本格実施することとしました。各 Returnedに中之島センターを活用させて頂いている方々において、中之島センターがさらに活用化し、大阪大学のブランドを高めることに寄与するものです。

利用者に支障なく使用いただけた準備を整えて、ご利用をお待ちしております。詳細は、大阪大学中之島センターホームページをご覧ください。

中之島センター特別減免制度利用手続きの流れ

12月19日（金）、1月22日（木）に職員向け研修として、「大阪大学情報発信力トレーニングプログラム」を実施しました。

第1ライン「中之島大学・ツーシャン・プラザ」では、どうすれば大学のブランドを構築できるのか、ブランドの在り方や阪大での実践について、関内ブランドフォーラム代表の平野憲彦氏と、本学クリエイティブユニットの伊藤幸一教授による講義が実施されました。

第2ライン「中之島大学・ツーシャン・プラザ」では、本学未来戦略機構次世代研究担当総合大学研究室の平井啓之教授を講師に、本学で実施されたイベントを事例にグループワークを行いました。誰に、何を、どのようにしてどう驚きによって、関心が集まるのかデザインし、相手に納得させる企画について活発な議論が行われました。

1月16日（火）、本学初の試みとなる私立大学との合同研修「大阪大学×同志社大学合同研修会」を同志社大学今出川キャンパスで実施し、同大学の事務職員計41名が、国立・私立の垣根を越え、職場でのキャリア形成についての意見交換を行いました。

本学教育学部支援センターの佐藤利明センター長による講演「プロフェショナル大学職員への道～職員に求められる能力とバックボーン～」の後、グループ毎に「前例踏襲主義」「大学の将来ビジョンの非存在」など、各職場における就業資格に関する観点を挙げ、改善策を話し合ったほか、評価制度、キャリアパスの違いなど、様々な見解を共有することができました。

PMTは今後も、意識改革のための様々な大学職員研修を企画し、大学の未来に寄与する職員の育成に努めていきます。

総長室 PMT

大阪大学 × 同志社大学合同 SD ワークショップ
教職員インタビュー

ようこそ大阪大学へ！
大阪の未来を支える新入職員にインタビュー

毎年多くの教職員が大阪大学に就任します。
新入職員のみなさんは、大阪にどのようなイメージを持ち、どのような意図でここに就任されたのでしょうか。

千葉 美里
人間科学系研究科 教務係
事務課長

休日勤務制

千葉: 定年を控えてお子さんがいた時期に、大阪大学の魅力を知り、入学を希望していました。

下野 望
エネルギーフィジカル科学
研究センター 会計课
事務係長

学生との々々の絆を大切にし、学びの場を設けていきたいと考えています。

矢山 篤
医療学研究科 研究課

医療学の分野で、患者の健康を守るために努めたいと考えています。

村田 农
農学系研究科 地球環境科学

農学系の領域で、自然と共生するための研究を進めていきたいと考えています。

久世 さと
情報科学系研究科 數学情報科学

情報科学の分野で、新しい技術を応用して、社会の課題を解決したいと考えています。

3つの質問
①就任のきっかけは何ですか？
②お役に立つと思うポイントは何ですか？
③今後向かってみたいこととはありますか？

大阪大学が求める教職員

- 教職員のインタビュー

①世界公的の教育研究を目指しています。
②学生に有益な情報を提供し、学びの場を設けていきたいと考えています。
③地域とのつながりを大切にし、地域社会の発展に貢献したいと考えています。

大阪大学の特色

- 教職員のミッション

①地域社会との連携を重視しています。
②学生の個性を尊重し、自主性を育む環境を提供しています。
③多様性を尊重し、共感を深める環境を提供しています。

大阪大学の魅力

- 教職員の魅力

①学びの場を提供し、学びの楽しさを伝えたいと考えています。
②地域社会との連携を強化し、地域社会の発展に貢献したいと考えています。
③多様性を尊重し、共感を深める環境を提供しています。
多面的・総合的な選抜により、国内外からの優秀な学生受け入れを推進

グローバルアドミッションズオフィス

【グローバルアドミッションズオフィスとは？】
大阪大学は、国内外からの優秀な学生を受け入れ、各
面での対応を飛躍させるためにグローバルオフィスを設立、世界に
送り出したいと願っています。

大阪大学グローバルアドミッションズオフィス（GAD：
Global Admissions Office）は、その両者の実現のため
の方針の一つとして、昨年1月1日付けで設置され
ました。

オフィスは、本学のアドミッション・ポリシーに基づ
く迅速な学生選抜のための研究を実施し、多面的・総
合的な選抜を実施することにより、国内外から優秀な学
生を受け入れ、本学の教育の高度化の推進に資するこ
とを目的としています。

オフィス長は未来教務局長兼全学の川崎津夫教授
が務め、専任教授4名、助教1名、他関係者5名が構成員です。

【優秀な学生確保の第一歩を実施しています】
平成26年度、A0入試を含む国内外の大学の選抜
研究の他、優秀な学生確保の第一歩として海外の高校
生に対して「海外在住仮在籍者特別入試」（英語
版・留学教育あり）7校を実施しました。

当該入試は、「日本に来ることで受験ができるこ
と」「日本で卒業することで大学進学を図ること」
を特徴としており、本学の2月16日から19日にかけて、テ
レビ会議システムを利用して、台湾、中国、韓国、ベトナ
ムの在留者に集まった受験者に対し面接を行い7市の
合格者がありました。

【2016年2月入学
海外在住仮在籍者特別入試（㋖）】

【21世紀の海外学生の
リクルート活動】

川崎 津夫

海外在住仮在籍者特別入試

私立大学は平成23年に海外在籍者
から、「学びと創造」の精神を守
止し、これにより「世界ある姿」と
して海外で教育入試あるいはA
O入試を実施したとします。

2016年4月入学

海外在住仮在籍者特別入試

海外の入学条件は、日本KOREANA HOTEL

海外の在住者から受験が予定されている。
外国人留学生修了パーティーを開催

3月16日（月）、外国人留学生修了パーティーを千里阪急ホテルで開催しました。このパーティーは、平成27年3月に本学を修了（卒業）予定の外国人留学生とその家族を平野後任校長が招待し、祝賀・懇談の場とするもので、毎年開催しています。当日は、本学教職員をはじめ、修了者のホストファミリーやボランティア、家族の方々も含めて約240名が参加し、参加者は写真撮影や映画館を楽しむなど、終了後はかなからひとり遊びを過ごしていました。また、参加した留学生からは、「阪大の学生はフレンドリーだった」「留学生相談室がとても親切で安心して学生生活を送ることができた」「博士後期課程に進学しても頼りたい」などの言葉が聞かれました。

中之島センターに看板を設置

マチカネワニ化石の銘板

昨年、国の登録文化財（天然記念物）に指定されました総合学術博物館所蔵のマチカネワニ化石の銘板が文化庁から交付され、博物館に展示しました。
大阪大学未来トーク 2015年度前期

第17回 青柳 正規
文化庁長官
「イタリアでの発掘 40年」
4月20日（月）17:00～18:30
大阪大学会館講堂（豊中キャンパス）

第18回 山中 伸弥
京師大学IPS細胞研究所 所長/教授
「IPS細胞がひらく新しい医学」
5月18日（月）17:00～18:30
大阪大学コンベンションセンター（吹田キャンパス）※総合会館でも中継をします。

第19回 永田 和宏
京師産業大学 総合生命科学部 教授
「ことばの力 - 科学と文学のあいだ」
6月15日（月）17:00～18:30
大阪大学コンベンションセンター

第20回 鈴木 章
出羽大津大学 全能教育
「有機ホウ素化合物を用いるクロス・カップリング反応」
7月1日（火）17:00～18:30
大阪大学会館講堂

メイン会場は別途にサテライト会場を各キャンパスに設け、吹田・豊中・貴志・中之島・京都在など地域でも未来トークにご参加いただけます。

吹田キャンパス・総合会館
豊中キャンパス・大阪大学会館
貴志キャンパス・吹田ギャラリー
中之島キャンパス・プラサスホール
中之島センター・10階 医療工学研究所

大阪大学未来トーク 2015

リング外

大阪大学未来学部

第18回関係者の集会写真
（写真提供：オーストラリア国立大学）

【阪大トリビア】「夏運」の名の由来はどこから来たのでしょうか？（答えは47ページ）
①地名 ②人名 ③書名 ④号名

詳細は、本学公式ウェブページ（www.osaka-u.ac.jp）「イベント情報」および「セミナー・シンポジウム情報」などをご覧ください。
のど飴 2015

これは、大阪大学の創立記念日（5月1日）を祝して、学生や教員、保護者の皆さんと一緒に、今年もあえて新生入生を歓迎する大阪大学の春の行事イベントです。

開催期間中には、学生の課外研究発表事業の成果発表会やホームカミングデイ、春のオープンキャンパスなど様々な催し方が企画されています。

皆さんがのお楽しみをお待ちしております。

日時：5月1日（金）、5月2日（土）
会場：各キャンパス、友愛館前広場
※お来場の際は、公共交通機関をご利用下さい。なお、旧キャンパスと新キャンパス間の移動については、連絡バスを使用しておりますのでご利用ください。

問い合わせ先：各機関の事務課（TEL：06-6875-7014）

第10回ホームカミングデイ

年に一度、大阪大学・大阪外国語大学の卒業・修了生、両大学の教職員OB・OGのみなさんが一堂に会するホームカミングデイ、第10回を記念して、在校学生や保護者の皆様にもご参加いただけるよう、より広範囲に「大阪大コミュニティ」の臺を設け、今年の「卒業生による講演」は、「もちろんかい」や「VOICE」などでお楽しみ、毎日放送アナウンサーの西田さん（放送学科卒）です、司会の関西テレビ放送アナウンサーの関西さん（人間科学部卒）とのトークセッションも注目です。

1710の研究室が見学できる「春のオープンキャンパス」

春のオープンキャンパスでは、1710の研究室が見学できます。大規模なオープンキャンパスと交差して、これまで学生同士で行われてきました、大学説明会、現役大学院生による受験生相談コーナーもあります。歓迎的な雰囲気でご参加いただき、高校生の皆様を歓迎しております。

日時：5月2日（土）10：00 - 16：00
会場：大阪大学 大規模オープンキャンパス（ザピンク・ザイオン）
更多詳細は、大阪大学外務課までお問い合わせください。TEL：06-6871-8424

サイエンスカフェ・オンザエッジ

腸管免疫 おなかの免疫、最新情報～

詳細：本学公認ウェブサイト（www.asaka-u.ac.jp）「イベント情報」および「セミナー・シンポジウム情報」をご覧ください。

Handai-Asahi中之島塾（4～6月期）

開催日時：4月15日（水）〜6月20日（土）
会場：大阪大学（大学院薬学部舎）
講師：元・医学部医学教育学講師
事前申込：4月1日, 4月15日, 5月1日, 5月20日, 6月5日
事前申込日：4月1日, 4月15日, 5月1日, 5月20日, 6月5日

電話：06-6875-8076

La Bocaフェス・ミュージックフェア「チチ松村のパンジャシー、あとの祭り...」

日時：4月26日（日）15:00〜17:00
会場：アートストリート（京阪電車中之島駅、

大阪大学大学院文学研究科准教授）

2015年4月1日

大阪大学

大阪大HDW 2015-4 / No.144
坂口志文特別教授（WPI-IFReC）が「ガードナー国際賞」を受賞

免疫学フロンティア研究センター（WPI-IFReC）の坂口志文教授（大阪大学特別教授）のカナダ「ガードナー国際賞」の受賞が決定しました。ガードナー国際賞は、カナダのガードナー財団より、「医学に対して顕著な発見や貢献を行った者」に与えられる賞で、世界中で最も権威ある科学賞の一つです。

過去、日本人では、石坂公成（医療、免疫学）、利根川進（免疫学）、山中伸弥（再生医学）、森和俊（細胞生物学）の各氏が受賞しています。

大阪大学からは、2011年に現WPI-IFReC拠点長の野村健男特別教授（免疫学）が受賞しており、坂口特別教授は2人目となります。

【受賞理由】
"for his discovery of regulatory T cells, characterization of their role in immunity and application to the treatment of autoimmune diseases and cancer"

「制御性T細胞の発見と免疫における役割の解明、ならびに自己免疫疾患と癌の治療への応用」

なお、授賞式は今年10月にカナダ・トロントで行われる予定です。また、受賞者には、ガードナー財団より10万カナダドルが贈られるとともに、10月26日〜30日に「ガードナー週間」が設けられ、受賞者の講演会がカナダ各地で開かれる予定です。

坂口志文特別教授の受賞の喜び

長年の仕事に対して国際的に認められて大変うれしい。この分野の研究はたくさんの人が研究をやってきたわけではなく、ここ15年くらいでいろんな研究者がやり始めてきた。その代表として賞をもらったと思っています。研究は何年やっても面白いためが出てくる。研究で長期を続けてきたことは非常にラッキーだと思います。結果として賞をもらったことでこの分野が注目されることも望ばしい。人への貢献、特に関わる病気の治療にこの研究を活かすことが重要と改めて認識しています。将来根治がどこまで可能かと期待をもつながら研究を続けていきたい。

大阪NOW 2015.4／No.144 2015年4月発行
編集：大阪大学広報・社会連携オフィス
デザイン：大阪大学クリエイティブユニット
発行：大阪大学広報・社会連携オフィス 広報課 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1 TEL:06(6879)7017 FAX:06(6879)7156
阪大NOWについてのご意見、お問い合わせにつきましては、email: kiousyakoukouhou@office.osaka-u.ac.jp までお寄せください。

次号（No.145）は2015年7月に発行予定です。
バックナンバーは、本学公式ウェブページ（www.osaka-u.ac.jp）からご覧いただけます。
大阪大学Facebookページ（www.facebook.com/OsakaUniversity）も随時更新中です。